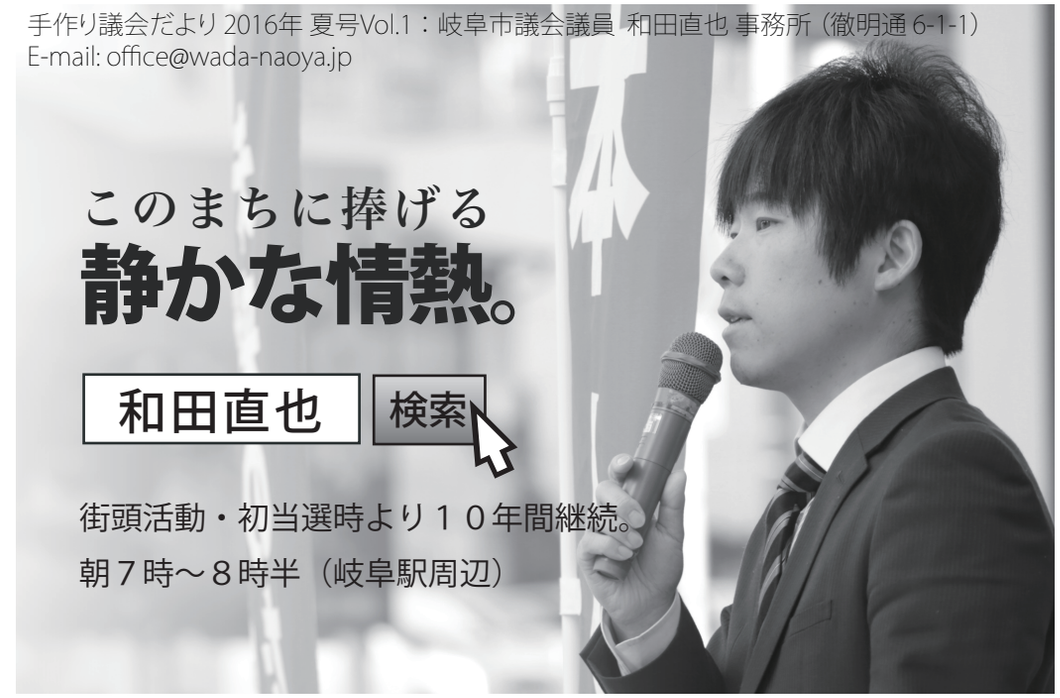
手作り議会だより 2016年 夏号Vol.1：岐阜市議会議員 和田直也 事務所（徹明通 6-1-1）
E-mail: office@wada-naoya.jp

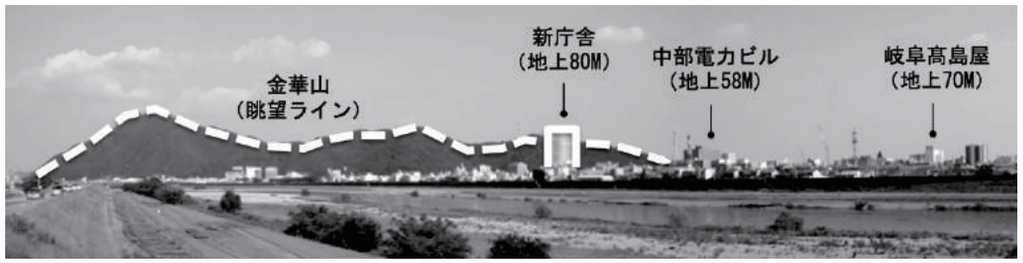
《 小学校の統廃合と小中一貫校 》
「徹明さくら小学校」来春開校へ。

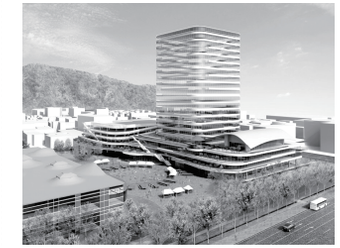
市立徹明小と木之本小の統合計画。私の小学校時代からの計画ですから実に四半世紀にわたる協議にようやく目処がつき、現木之本小にて平成２９年度開校の新しい学校名が**「徹明さくら小学校」に決定**しました。市議会で設置条例案が審議されます。人口減・少子化で公共施設統廃合は必至という状況の中、それぞれに「母校」という特別な場所の統廃合は、本当に神経を使う仕事です。私たちはとかく見えるモノに目が向かいますが、そうした協議や調整での最大の立役者は、目には見えない**失われる側、刻まれない側の「変わること」を「受け入れる」度量・寛容性**だと、改めて深く学んでいます。今回は両校・両地域とも場所と名称を巡り、その経験をしました。いずれにしても**第一義は子どもたちの学習環境**です。次は校歌・校章の制定と両校の閉校に向けた準備、そして跡地となる現徹明小の今後の具体的な活用法の提示です。その具体策として**議会提案した「小中一貫校」の開校に向け、まだまだ調整**が続きます。



《 岐阜市新庁舎建設 》
概算工事費が不明瞭、高層化で本当に良いか。

１８階建て・地上８０メートルの新庁舎基本設計が公開、あわせてパブコメに対する市の考え方が公表されました。各部局の配置やユニバーサルデザイン、防災機能をはじめ、熟慮を重ねた設計については敬意をもって眺めています。ただ、最も論点となりうる建物形状について４点意見しました。①プロポーザルで選ばれた設計者の９階建て**低層庁舎原案（技術提案書）を一般公開せず**、一方で「10 階 ,12 階 ,14 階 ,16 階 ,18 階 ,20 階」の６案を設計業者に作るよう求め、そもそも**建物形状の大幅変更を行った**



プロセスが全て非公開であった点、②パブコメでも意見の多かった高層化による日影の懸念について、メディアコスモスのシミュレーションは９階建て原案との比較が示されたものの、**概算工事費、将来の維持費、機能性という点については、原案との比較検討結果を何も示さなかった点**、③昨秋に公表した基本設計案は建物パースが曖昧なままで、結果的に白を外壁の基調とする新庁舎の色彩について、**今後の検証や開かれた中間報告会などを行う予定がない点**、④金華山や長良川といった歴史的景観を守るために１８階建てという突出した高層庁舎で本当に良いか、**景観シミュレーションや専門家の意見聴取を行っていない点**。こうした点を踏まえ「百年の大計」と繰り返し説明する大型事業にしては、誠実さに欠く岐阜市の進め方に疑問を持っています。

各地の視察や情報収集を踏まえ、時の首長の意向が強く影響する公共建築物について、プロポーザル制度の限界も感じています。しかし、この事業を遅滞なく行う重要性も確かなところです。議員として得た情報を皆様に提示した上で、実施設計を見守りたいと思います。